

テーマ：アーカイブズの新たな時代へー課題と可能性ー

中華人民共和国香港特別行政区政府政府档案処報告

デジタル時代の課題を活用してアーカイブズの未来をより良いものに：政府档案処の事業
と取組のハイライト

政府档案処アーキビスト テッド・チェン

はじめに

1. 21世紀、技術はかつてないペースで進化し、社会の変化と進歩を加速させている。中でもデジタル技術は私たちの生活のあらゆる小さな側面にまで浸透している。こうした状況下では、政府が時代に合わせて変化し、公共サービスの提供および市民との双方向の交流の新たな方法を模索することが不可欠である。この移行には、リスクと問題解決、課題と機会が混在している。
2. 同様に、アーカイブズ機関は、技術の急速な進化がもたらす、深刻化する課題に直面せざるを得ない。こうした課題に適切に対応し、うまく活用すれば、アーカイブズサービスの前向きな変革への道が開かれ、ガバナンス強化と市民の生活の質の向上につながるであろう。
3. 中華人民共和国香港特別行政区政府（以下「政府」）の政府档案処（以下「GRS」）もやはりデジタル時代の技術進化の波の影響を受けている。本報告では、GRS が特定してきた課題を簡単に振り返り、こうした課題に対処するための主な取組を紹介する。GRS では、デジタル技術は諸刃の剣のようなものだと考えている。記録遺産の保存に多大な課題をもたらすものの、慎重に管理し、適切に活用すれば、課題はアーカイブズのより良い未来に貢献する有益なツールやリソースに変えることが可能である。

課題

政府業務における電子プラットフォーム、オンラインプラットフォームの利用の増加

4. 世界的潮流と軌を一にし、香港をスマートシティに発展させるべく、香港特別行政区政府行政長官は2022年の施政方針演説で、政府サービスのオンライン化およびワンストップのデジタルサービスポータル提供によるスマート政府の構築を発表した。言い換えれば、政府は公共サービスの提供にデジタルでの手段を用いる方向へ徐々に移行するということである。政府内部でも、デジタルでの手段によるコミュニケーション、業務上の取引、情報や

(国立公文書館による仮訳、原文がイタリック体表記の場合は仮訳でも同様に表記)

データの共有は当たり前のものとなっている。さまざまな形式のデジタルの情報やデータ、記録は、爆発的な増加が予想される。電子記録は長期保存という点で複雑な問題を抱えている。技術の陳腐化、媒体の脆弱性、ハードウェアやストレージメディアの物理的損傷の可能性など、時を越えて電子記録の真正性、完全性、信頼性、有用性を継続的に維持することが困難となる大きなリスクをもたらす。

変わりゆくユーザーの要求と期待

5. 過去 20 年の情報技術の急速な発展により、一般市民の情報検索習慣は大きく変わった。インターネット検索エンジンのおかげで、現代人は大量の必要な情報を数秒で入手できる。先頃の新型コロナウイルス感染症拡大時には、重大な公衆衛生上の懸念と、程度は異なるものの世界各地でのソーシャルディスタンス確保の措置により、多くの組織が従業員に「在宅勤務」を許可し、政府は公共サービス維持のためオンラインプラットフォームに一層依存しなければならなかった。こうした感染拡大時の影響によって強まったとおり、オンラインの公共サービスと情報へのリモートアクセスの需要の高まりは避けられない。こうした傾向は、GRS がユーザー調査で収集した一般市民の意見に表れており、よりユーザーフレンドリーなオンラインカタログと電子化されたサービスの提供、アーカイブズ所蔵資料のデジタル化の加速、アーカイブズ所蔵資料のオンライン閲覧とアクセスなどが、市民から多く提案された。これらの提案は、現在および今後数年かけて GRS が対応すべき、変わりゆくユーザーの要求と期待をよく表していると言える。

新たなアーカイブズのスキルと知識の必要性

6. アーキビストとは、永続的価値のある記録を管理する専門職である。アーキビストの中核となるスキルと知識には、永続的価値のある記録の評価、取得、編成、受入れ、記述、保存、アクセス提供に加えて、アーカイブズ機関、プログラムおよび／または収蔵施設の管理が含まれる。出所の原則と原秩序尊重の原則は、プロのアーキビストが記録のコンテキスト、真正性、完全性を維持する目的で記録管理を行う上での基本的原則である。しかし、デジタル時代のパラダイムシフトにより、アーキビストはアーカイブズのスキルと知識の継続的有効性に関する問いから逃れることはできなかった。アーカイブズのスキルと知識をどのように見直し、再活性化すべきかという問題は、これまでアーカイブズのさまざまな学者や実務家によって広く議論されてきた。実際、GRS にとって、政府機関のあらゆる種類の情報システムによって作成されるボーンデジタル形式の記録は増え続け、オンライン検索に慣れたユーザーが増加し、また最も重要なこととして、進化し続けるグローバルな情報エコロジーと政府・市民間の新たな双方向の交流の在り方が出現することで、GRS のアーキビスト級職員やその他の専門職員による新たなスキルセットと知識の取得がこれまでになく

(国立公文書館による仮訳、原文がイタリック体表記の場合は仮訳でも同様に表記)

早急に求められている。

GRS の事業と取組のハイライト

(a) 新たなアーカイブズセンター

7. 1997 年に開設された現在の我々のアーカイブズ専用施設、香港歴史档案馆ビル が収蔵能力の限界に達したため、GRS は 2023 年 6 月に巨大石洞内に新たなアーカイブズセンター（以下「AC」）を建設するプロジェクトに着手しており、同施設は開設後 30 年間の収蔵ニーズを満たすことを目指している。このプロジェクトの最大の特徴は、安定性の高い安全な収蔵環境を提供する開発地区の山の内部にアーカイブズ収蔵施設を建設することであり、これによってアーカイブズに最適な収蔵条件がもたらされ、必要な環境条件を維持するための電力（ひいては稼働コスト）が節約できる。プロジェクトでは、建設プロセスを迅速化する革新的技術（例えばモジュール統合建設など）のみならず、アーカイブズの収蔵・出庫効率の最適化のための自動化システム（自動収蔵・出庫書庫（以下「AS/RS」）など）も適用される。GRS では現在、今後の運用要件に合うように、AS/RS の詳細な設計とハードウェアの配置を調整中である。GRS の事務室として機能する石洞外のポータルビルを含む新たな AC は、2029 年の開設を予定している。新 AC プロジェクトについては、第 16 回 EASTICA 総会及びセミナーの地域別報告〔2023 年〕で詳細に紹介しているため、ここでは、政府の中央アーカイブズの未来の新拠点を提供するための革新技術と技術を適用する GRS の取組についても示すことのできるプロジェクトに焦点を絞って説明したいと思う。

(b) 電子記録管理と電子記録の長期保存

電子レコードキーピングシステム

8. ガバナンスの向上とスマート政府の構築を目指し、政府は 2025 年末までにすべての政府機関および省庁（以下「B/D」）への電子レコードキーピングシステム（以下「ERKS」）の導入を決めた。紙ベースのレコードキーピングシステムと比べ、ERKS は、ユーザーが記録の取得、分類、アクセス、最終処分といった複数の記録管理行為を一貫性のあるコントロールされた方法で実行できるため、日常業務が容易になり、記録の不正廃棄や不注意による紛失のリスク軽減に役立つ。ERKS は政府のデータセンター内のプライベートクラウドプラットフォーム上に構築され、すべての記録は安全でコントロールされた環境で集中管理され、完全に暗号化される。新たな中央 ERKS は、以前のパイロットプログラム下での B/D の経験に基づいて開発された。GRS は、政府のイノベーション・科学技術・工業局 のデジタル政策 室（以下「DPO」）と連携して、すべての B/D が段階的かつ秩序正しく ERKS を

(国立公文書館による仮訳、原文がイタリック体表記の場合は仮訳でも同様に表記)

導入できるよう積極的に支援し、B/D によるプロジェクトチーム編成とシステム導入準備を支援するとともに、導入の進捗状況を綿密に監視し、必要に応じて B/D に迅速な助言を提供している。

ソーシャルメディアプラットフォーム上の記録管理に関する政府 B/D 向けガイダンス

9. GRS では、政府内外のさまざまな新しい要求に対応するため、記録管理に関する既存のガイダンスの継続的な見直しと更新を行いつつ、新たなガイドラインを策定、発行している。デジタル時代を迎え、B/D では、メッセージを発信し、一般市民とコミュニケーションを取る上でソーシャルメディアの利用が増えている。政府の公務員と B/D のこうした傾向を認識し、GRS ではさらにソーシャルメディア記録の管理に関するガイダンスを策定した。このガイダンスの目的は、B/D によるソーシャルメディア記録管理のベストプラクティス採用を支援し、こうした記録が現行の記録管理原則と必須要件に従って適切に処理されるようにすることである。特に、B/D は、他の記録と同様に、ソーシャルメディア記録の業務ルールと最終処分スケジュールを定め、ソーシャルメディア記録が適切かつ体系的に作成、収集、最終処分されるようにする必要がある。

電子記録の長期保存

10. 2021 年の「電子記録の長期保存（以下「LPER」）についてのコンサルタント調査」の完了後、政府内のサービス全体での LPER 導入を監督するため、GRS では、2023 年にタスクフォースを設置し、GRS 内のさまざまなチームや専門職からメンバーを集め、情報技術に関する専門的な技術アドバイスの提供を受けるべく DPO に参加を依頼した。このタスクフォースを支えるのは、GRS と B/D それぞれにおける技術強化、変更管理、研修に焦点を絞った 3 つのフォーカスグループである。この業務は 2024 年初頭にスタートしている。

11. 包括的かつ構造化された保存戦略を通じてアーカイブズの電子所蔵資料の管理・保存に関する指針の原則と方向性を示すため、このタスクフォースはデジタル保存戦略の策定を優先的に実施し、これに基づき、さまざまな政府 B/D 向けに LPER の種々のガイドラインおよび研修資料を作成することとしている。一方、前述した今後数年間の 2 つの重要なマイルストーン、すなわち、2025 年の全 B/D における ERKS の導入、2029 年の新 AC 稼働を念頭に置き、本タスクフォースはまず LPER のハイレベル導入計画を策定し、今後の作業の優先順位付けを行った。とりわけ、このタスクフォースは、完全実装される中央 ERKS から電子記録をエクスポートするプロトコル開発という新プロジェクトに着手しており、これには、電子記録を GRS に移管してアーカイブズ価値のある記録の評価、技術的検証、登録を行い、最終的にデジタルリポジトリに取り込むまでを一体的に行うステージングプ

(国立公文書館による仮訳、原文がイタリック体表記の場合は仮訳でも同様に表記)

プラットフォームが含まれる。このプロジェクトでは、長期保存と一般市民および B/D によるアクセスのため、デジタルリポジトリとの将来的なシステム統合も検討することになっており、現在、プロジェクト範囲の定義とプロジェクトにかかるコストの見積りが行われている。

(c) アーカイブズ発見のための多様なプラットフォームと手段

12. GRS は、デジタル時代によって、サービスへの一般市民の需要と期待が高まっていることを十分に認識している。一方、情報技術の急速な発展により、サイバースペースでこの目標を達成する新たな機会もまた GRS にもたらされている。さまざまなユーザーのニーズに応えるため、GRS ではサービス提供方法の多様化に向け多大な努力を払ってきた。既存のユーザーグループおよび新たなユーザーグループへのリーチ拡大のために新たなオンラインプラットフォームを積極的に模索するほか、ハイブリッドサービスプラットフォームを提供するなど、従来のオンサイトプラットフォームを強化し続けている。GRS では、サービスプラットフォームの多様化によって、膨大なコレクションの発見、理解、利用におけるユーザー・エクスペリエンスが向上し、地域の貴重な記録遺産への一般市民の理解が深まるものと考えている。

オンラインプラットフォーム

・オンラインカタログ@PRO の充実

13. GRS のオンラインカタログ「@PRO」は、イントラネットモジュールを通じてアーカイブズとライブラリーの管理をサポートし、インターネット機能を通じてユーザーへのレファレンスサービス提供を円滑にする。2018 年の立ち上げ以来、GRS は継続的に@PRO を充実させてきた。アーカイブズ所蔵資料をより適切に保存し、地域社会にとってのアクセス性を高めてユーザーの多様なニーズに応えるため、GRS ではより多くのデジタルコレクションをより速いペースで@PRO にアップロードしてきた。デジタルコレクションには、2018 年の立ち上げ以来、組織内での大量デジタル化プロジェクトによりデジタル化された所蔵資料と、B/D から取得したボーンデジタル資料がある。2024 年 9 月末現在、約 97 万枚のデジタル画像が@PRO を通じて閲覧可能となっている。凹面は、新 AC のアーカイブズ所蔵資料管理のために開発される管理システムと統合することで、@PRO を充実させていく。これもまた、LPER タスクフォースが監督するプロジェクトの 1 つとなる。

・GRS のウェブサイトと歴史档案馆の Facebook ページ

(国立公文書館による仮訳、原文がイタリック体表記の場合は仮訳でも同様に表記)

14. GRS への一般市民の理解と支援を向上させるためには、パブリックエンゲージメントが不可欠である。積極的に GRS の膨大な所蔵資料によりアクセスしやすくし、GRS の活動を周知することで、アーカイブズ資料の価値への理解を深めている。@PRO に加え、GRS のウェブサイトは、デジタル化された所蔵資料(とりわけ、頻繁にアクセスされる所蔵資料)へのアクセスを提供するもう 1 つの主要なオンラインプラットフォームである。ウェブサイトでは、所蔵資料の検索に役立つ 60 を超えるトピックガイドを提供している。さらにウェブサイトでは、さまざまな所蔵資料を特集したオンラインの企画展示も行っている。2022 年からは 360 度バーチャルツアーも導入し、毎年 of 企画展示を利用者の都合に合わせて見られるようになっている。ソーシャルメディアを通じてより多くのユーザーを引き込むため、2020 年に GRS の歴史档案馆(以下「PRO」)の Facebook ページが開設された。同ページでは、所蔵資料のストーリーを共有し、GRS の業務の舞台裏を紹介し、新たな一般向けプログラムの広報を行い、多様なオーディエンスに届くよう、より広範な地域社会とのつながりや双方向の交流を促進している。オンラインリソースと PRO の Facebook ページはどちらも好評を得ている。ウェブサイトの訪問数は 2023 年に 3,000 万回を超え、PRO の Facebook ページは 2024 年 9 月時点で 17,000 人を超える「フォロワー」を獲得している。

オンサイトおよびハイブリッドのプラットフォーム

・教員向けの専門セミナー・研修およびカスタマイズ型の学校訪問活動

15. GRS は、デジタルプラットフォームとソーシャルメディアを活用して、届く範囲を拡大し、パブリックエンゲージメントを実施し、集合的記憶の保存における公文書の重要性を強調し続けている。この 10 年間、GRS はさまざまな一般向けプログラムを企画し、一般市民による GRS の広範なコレクションとサービスの発見、理解、評価、利用を促進してきた。こうしたプログラムには、オンサイトおよびオンラインでのグループ訪問、セミナー、企画展示などがあり、それぞれが地域社会の異なるセグメントを引き込み、アーカイブズへの認識を高めるよう設計されている。さらに、GRS は教育局 と緊密に連携し、オンサイトおよびオンラインの中等学校教員向け研修や、多数のカスタマイズ型専門研修コースを通じて、GRS 所蔵資料の教育リソースとしての活用を推進している。2023 年 12 月から 2024 年 5 月まで、GRS の企画展示「昔日の香港を旅する」に関連し、地元の研究者や学者の主導による一連のハイブリッドセミナーが開催された。このセミナーでは、参加者はアーカイブズ所蔵資料を探索するだけでなく、香港の観光開発への理解も深めることができた。各セッションには中等学校の歴史科の教員 100 名以上が参加し、好評を博した。また GRS は、幼稚園、初等学校、中等学校と積極的に協力し、オンサイトおよびオンラインのグループ訪問やセミナーを企画している。さらに、さまざまな教育ニーズを満たすため、カスタマイズ型コンテンツによる学校訪問も提供している。この取組により、GRS はより幅広いオーディエ

(国立公文書館による仮訳、原文がイタリック体表記の場合は仮訳でも同様に表記)

ンスに手を伸ばし、若者や潜在的ユーザーとのつながりを強化することが可能となっている。

・パブリックエンゲージメントプログラム

16. GRS は毎年企画展示を通じ、積極的にパブリックエンゲージメントを実施してきた。2019 年以降は、企画展示を企画する際の主要素として、人を中心としたアプローチを採用している。展示内容を充実させるため、地域社会の皆さんがお持ちのコレクションの提供をお願いするプログラムを開始している。また、オンサイトの来館者のために、ソーシャルメディアの「チェックイン」用として入口近くに写真撮影用背景を設置するなど、展示をテーマにした機能を提供し、小道具やリーフレットなどさまざまな広報資料を配布して、来館者の体験を向上させた。今後の巡回展示では双方向性を高め、GRS の記録遺産と一般市民とのつながりを深めることに重点を置いていくこととしている。

17. 上記のパブリックエンゲージメントプログラムはいずれも、GRS の業務と地域社会のニーズの橋渡しとなり、十分な情報に基づく支援的環境を育む。これらのプログラムによって、私たちの集合的記憶の保存は共通の責任として認識され、未来の世代のために集合的記憶を記録・保存するという公文書の役割を重視する地域社会の支援が得られるようになる。

(d)研修と専門能力開発ーデジタル時代に向けた準備

18. GRS は、とりわけデジタル時代におけるパラダイムシフトの課題に直面する中で、職員の継続的な研修および専門能力開発の価値と重要性を認識している。GRS の職員は、アーキビスト級、幹部級、学芸員級、アナリスト／プログラマー級の職員と、その他のサポート職員で構成されている。従来のような責任分担よりも、協働作業が多くなりつつある。GRS のさまざまな職種と職級間のチームワークや相乗効果は、デジタル時代における円滑な業務と移行の重要要素である。前述の LPER タスクフォースは、GRS のさまざまな職種と職級の支援を必要としている。これは、デジタル保存の課題に取り組む上で分野横断的かつ協働的な環境を育むという GRS の取組を示す一例である。一方で、過去に経験のないようなデジタル情報およびデジタル記録の増加を管理するには、GRS のさまざまな職種および職級の能力と専門技術の継続的な構築・強化が不可欠である。

GRS の研修と専門能力開発の戦略

19. GRS は、専門家と歩調を合わせて進められるようチームをサポートするため、アーキビスト級職員向けの包括的な研修および専門能力開発の戦略を策定した。そこでは、(1)中

(国立公文書館による仮訳、原文がイタリック体表記の場合は仮訳でも同様に表記)

核となるアーカイブズおよび記録の管理の知識、(2)デジタル関連の能力、(3)分野横断的な知識および協働作業の、3つの重要分野に焦点を絞っている。このアプローチには、この分野の新傾向とベストプラクティスという、両方の基本概念をともに網羅する、教育プログラムやワークショップへの参加が含まれる。さらに、分野横断的なプロジェクトや取組に参加することで、分野横断的な協働作業の環境を育み、チームの実務経験と知基盤を広げるよう努めている。また、多様な視点を通してイノベーションの促進と問題解決能力の強化も目指している。

20. 今後の課題にうまく対処できるよう、GRS では研修および専門能力開発に必要なリソースの投入を継続し、職員が、選別と評価、デジタル保存技術、著作権法、メタデータ標準などのアーカイブズ業務特有のスキルと、リスク管理、監査および認証、コミュニケーションを含む一般的な専門スキル／プロジェクトスキルの両方を習得できるようにする。

実施

21. こうした研修および専門能力開発の戦略に従い、GRS のさまざまなチームが、オンサイトおよびオンラインのコース、ウェビナー、ワークショップなど、さまざまな研修に参加してきた。研修セッションは、アーカイブズ／記録管理、デジタル保存、イノベーションと技術、リスクと災害管理、倫理、コンプライアンス、ガバナンスと管理などのトピックを重点に、評価の高い専門機関または政府の公務員学院によって実施されている。

22. GRS は、デジタル時代における協働作業の重要性を認識し、アーカイブズおよび記録管理部門と関連分野の専門家の関係構築にも努めている。さまざまな専門家の訪問が行われてきた。例えば、2023/24 年度、GRS の職員は国際公文書館会議アブダビ大会に出席し、ケベック国立図書館・公文書館、マギル大学収蔵センター、カナダ建築センター、中国本土の深圳図書館を訪問した。また、同じ 2023/24 年度、東華三院の档案・歴史文化事務局、香港聖公会档案馆 および中国本土の広州市国家档案馆 からの訪問も受け入れた。これらの訪問は、GRS の専門知識を深め、世界のパートナーおよび同業者とのつながりを強化するものとなった。

結論

23. 10 年前から、イノベーションと技術、とりわけデジタル技術の急速な成長を予測し、GRS では役割を再検討し、デジタル時代における香港の記録遺産の保存と推進に卓越した、香港をリードする最も洞察力とリソースに富む公的アーカイブズ施設として、新たなビジ

(国立公文書館による仮訳、原文がイタリック体表記の場合は仮訳でも同様に表記)

ョンのもとで自らを定義し直した。GRS の使命¹は、技術の活用、デジタル時代の課題への対応とも切り離せない。

24. 実際、急速に進化するデジタル技術は、GRS を含むアーカイブズ機関に数多くの課題をもたらした。本報告で明らかにしたとおり、GRS ではこれらの課題を受け入れ、さまざまな方法でそれに取り組んでいる。現在建設中の新 AC は、今後数十年にわたって永続的な価値を持つ、増加し続ける政府記録を保存するための斬新な建物と設備の提供を目指している。GRS は、B/D の電子記録管理能力を前もって強化するために ERKS を展開し、デジタルアーカイブズ管理に適した政策・戦略およびガイドラインの策定、さらには新システム開発の計画を練ってきた。GRS は、デジタル時代のユーザーの変化する需要と期待に応えるため、アーカイブズ発見のプラットフォームと手段を強化してきた。最後になるが、研修と専門能力開発を通じて、およびデジタル時代の課題の対処に必要な新たな能力とともに、最新の主要なスキルと知識を職員に身につけさせるよう努めている。この 10 年間に築かれた基盤をもとに、GRS は新しい技術の課題を活用し、デジタル時代の記録遺産の保存における卓越性と香港のアーカイブズのより良い未来に向けた取組を続けていく。

¹ GRS の使命：

- ・ 包括的かつ多様なアーカイブズコレクションを構築
- ・ アーカイブズコレクションへのユーザーフレンドリーかつ便利なアクセスを提供
- ・ 最新技術でデジタルアーカイブズを構築
- ・ 政府機関、省庁、公的機関における適切な記録管理の習慣を促進
- ・ 保管、保存、検索サービスのための高度な設備を提供
- ・ 地域社会における記録遺産の認識、評価、適切な利用を促進
- ・ 他のアーカイブズ機関とのより緊密なパートナーシップを促進